

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>・給食時の「楽しい学校のステキな友達を紹介する」ほめほめタイムを中心に、「褒める」ことを大切に全職員で取り組むことができた。児童の自己肯定感や自己有用感も高まりつつある。しかし、不登校傾向や学級で不適応を起こす児童が増加しており、学校の課題である。</p> <p>・大きないじめ事案に発展する事案は起きることがなかった。今後も、迅速な報告と組織での共有、対応を行う。大きな事案に発展することはなかったが、いじめ事案は起きている。他者への思いやりや社会性を身につける教育活動の充実を図る。</p> <p>・交通事故が年度当初に3件起こった。今後、交通事故の再発防止に向けた取り組みを行うとともに交通事故にかぎらず「命を守る」教育及び指導、家庭との連携を充実させたい。</p> <p>・地域との関係がよく、学校への理解と協力が得られている。今後も、地域との連携を大切にしながら開かれた学校づくり、神野を愛する児童の育成を継続していく。</p>
--------------------------	--

2 学校教育目標	<p>夢をもち 心豊かに たくましく生きる 神野っ子の育成 ～みんなでハッピー～</p>
-----------------	--

3 本年度の重点目標	<p>①自己肯定感・自己有用感の育成による心の安定</p> <p>②安全に関する資質・能力の育成による事故の未然防止</p> <p>③業務改善・働き方改革の推進による働きやすくなりやすい職場づくり</p>
-------------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
----------------------	-------------	---------------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○学力・学習状況調査結果の分析をもとに、各学年で考えた取り組み達成率を90%にする。(職員アンケート)	・問題解決型または学習過程のあり方を全職員で共通理解し、ノート指導や学習のきまりの指導の徹底を図る。 ・学習の振り返りや日記、自学などを通して、各学年に応じた書く取り組みを行う。	B	・指導はしているものの、まだ徹底というところまでは到っていない。ノート指導はできているが、学習のきまりについては、機会を見つけて、指導を行っている。 ・各学年の実態に合わせ、学習の振り返りや日記、自学などを行った。学年によっては参考になる自学などを掲示した。 ・学年主任や先輩教員が若手教員へ授業実践のアドバイスや学習内容の定着について確認をしていく。
	○主体的に学び、進んで考える児童の育成	○めあてを達成するために、友達と話したり、調べたりするなど、「進んで学習に取り組んでいる」と答えた児童を80%以上にする。(児童アンケート)	・興味・関心疑問を引き出すような課題提示の工夫を行い、友達と対話させながら、主体的に学び、進んで考える児童を育てる。	A	・1学期末に行ったアンケートでは、87%の児童が「進んで学習に取り組んでいる」と答えた。引き続き、学びの5か条を軸とした学習習慣づけと主体的に学ぶことができる授業づくりを行ってきたい。 ・「学ぶんジャー」というキャラクターを用いることで学びの5か条を楽しく身につけていきたい。	A	・「宿題にきちんと取り組んでいる」や「進んで学習に取り組んでいる」と答えた児童は、どちらも90パーセント以上であった。 ・どのクラスでも授業の中で友達との対話を通して学びを広げ、深める「友達タイム」を設定した。	A	・保護者のアンケート結果をみても、家庭学習における家庭での協力が高い。学校と家庭が連携して子どもたちの育ちを応援していることがよく分かる。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートの、道徳に関するアンケートの項目において肯定的な回答をする児童を80%以上にする。(児童アンケート)	・道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を高めるための授業実践力の向上に取り組む。 ・フリー参観デー等で道徳授業を公開し、家庭・地域と心の教育の連携を強化する。	B	・6月及び11月のフリー参観デーにおいて、全クラス道徳の授業公開を行った。 ・学年末に道徳アンケートを実施する。	A	・授業参観でどの学級に於いても「ふれあい道徳」として授業を行った。また、「いじめいのちを考える時間」を設け公開を行い、自他の命の大切さについて話す機会を設けた。 ・道徳に関するアンケートの項目において肯定的な回答をする児童80パーセント以上達成した。	A	・ほめほめ活動は、豊かな心を育てることに大いに効果があると感じる。 ・神野の子どもたちは、あいさつもよくしてくれる。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○教職員の研修や教育相談週間、いじめアンケート・心のアンケート等の実施により、「学校はいじめ防止・早期発見と解決に努めている」と答える教職員を100%にする。(職員アンケート)	・アンケート等で問題事案を覚知した場合は、早急に学年、生徒指導などのチームで対応する。正確に事実確認をし、話し合いの場を設け、早期解決を図る。	B	・児童、保護者アンケートや心のふりかえりノート、教育相談週間を行い、早期発見に努めた。 ・対応については、「一人で抱え込まない」を合い言葉にして、学年主任、生徒指導主任、教育相談担当、管理職で対応している。 ・学年末に校内の対応についてアンケートを実施し、早期発見、早期対応についてふりか	A	・いじめの早期発見については、アンケート等を遂行できた。実施後の対応についても組織で対応することができ、大きな事案に発展することがなかった。 ・「学校はいじめ防止・早期発見と解決に努めている」と答える教職員は100パーセントに達した。 ・教育相談週間として、児童一人ひとりと話す	A	・いじめの大きな事案が発生していないので、今後も引き続き、早期発見、早期対応、早期解決を怠らず取り組んでいただきたい。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上(児童アンケート)(資料⑤) ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上(児童アンケート)	・学習時間をはじめ学校生活のあらゆる場面で一人一人のよさを見つけ「みんなでハッピー」を合い言葉に、全職員で自己肯定感を高めるために「ほめほめタイム」に取り組む。	B	・全職員で児童のよさを見つけ、ほめほめタイムで紹介している。 ・「先生はあなたのよいところをほめたり認めたりしてくれますか」という質問に、肯定的な回答をした児童が、87%だった。 ・「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に肯定的な回答をした児童が、87.3%。 ・今後も、児童に伝える	A	・ほめほめタイムでの紹介は、毎日欠かさず実施できた。 ・先生はあなたのよいところをほめたり認めたりしてくれますか」という質問に、肯定的な回答をした児童が、90.8%だった。 ・「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に肯定的な回答をした児童が、85.9%であった。	A	・ほめほめタイムは、今後とも継続していただきたい。 ・子どもたちの自己肯定感を高めるためには、やはり「ほめる」ことが大切だと思う。 ・全職員で子どもたちのいいところを見つけようとする先生方の姿がすばらしい。

●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	生活ががんばり表の生活習慣に関する項目において、肯定的な回答をする児童を、早寝早起きに関する項目では70%以上、朝ご飯に関する項目では80%以上にする。(児童アンケート)	・4月の個人懇談で、生活習慣の形成に関する文書を保護者に配布し、規則正しい生活習慣の形成を呼びかける。 ・「家庭学習・生活がんびり週間」を実施する。期間中は、生活がんびり表で自分の生活を振り返り、望ましい生活習慣を意識させる。 ・がんばり表の結果を学年ごとに集計、考察した文書を家庭に配布し、望ましい生活習慣の形成の啓発を図る。	B	・4月の個人懇談で生活習慣の形成や家庭学習に関する文書を全家庭には直接渡し、生活習慣の形成を呼びかけた。 ・9月の第1週目を生活頑張り週間とし、生活頑張り表を実施することで、規則正しい生活を意識させた。 ・11月に生活頑張り表の結果を集計、考察した文書を家庭に配布した。継続してほしい点、課題となる点を家庭に知らせることで、規則正しい生活の継続を呼びかけた。	A	・家庭への呼びかけについては、個人懇談、生活頑張り週間の設定及び集計結果の文書配布を通して行うことができた。 ・養護教諭や栄養教諭を中心におたよりを発行して睡眠や朝ご飯等の重要性について家庭に伝えることができた。 ・児童へのアンケートでは、78.9%が実践できたと答えており、保護者においては、93パーセントが実践できたと回答した。	A	・今年度の取組みが結果につながっている。 ・児童への働きかけだけでなく、保護者への啓発を今後は工夫していただきたい。
	●安全に関する資質・能力の育成	○児童の交通事故0を目指す。 ○自転車に乗車の際のヘルメット着用率90%以上を目指す。(児童アンケート)	・担任、安全指導、生徒指導主任との連携を密に、日常の生徒指導や交通安全教室等を通して、児童の安全意識を高める。 ・長期休業前は、重点的に全体で指導を行い、安全意識を高める。	C	・登下校の事故は現在0件。校内放送で、登下校中の安全を呼びかけている。 ・長期休業前は、全体で指導を行っている。 ・ヘルメットの完全着用率は82%。	B	・登下校中の児童の交通事故は、現在も0件。登下校中の安全についての意識付けはできてきている。 ・ヘルメットの完全着用率は81.2%と目標には届かなかったため、継続して着用への呼びかけを行っていく必要がある。 ・登下校の安全については、地域からご意見をいただくことがあった。おたよりに学年、クラスで実態に合わせた呼びかけを継続して行う必要がある。	B	・児童への働きかけだけでなく、保護者への啓発を今後は工夫していただきたい。 ・登下校の安全については、職員や児童、保護者と確認をして、指導にあたりたいと思う。 ・登下校中の交通事故が今年度は0件でよかった。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・毎日19:00の全員退勤を目指し、声をかける。19:00以降に残業をする職員については、退勤時刻を申告して、時間を意識した働き方を促す。 ・金曜日は、18:00退勤、18:30セット完了を徹底する。 ・毎月の学年主任会で年休取得の推進や時間外が多い職員について話題にして、業務改善・教職員の働き方改革についての意識化を図る。	C	・毎日19:00に声をかけることはできたが、全員退勤はできていない。しかし、退勤時刻の申請を取り入れたことで、時間を意識して働くようになっている。 ・金曜日の18:30セット完了は不徹底。 ・年休取得については、夏季休業中に会議の精選や日程を工夫して積極的な取得につながった。 ・学校長が超過勤務のデータをもとに、職員へ業務改善、働き方改革についての意識変 ・交流学級との密な連携を通して、児童の成長を支えることができた。 ・毎週1回の特別支援部会を開催することで、児童の現状や対応について共有し、支援することができた。	C	・毎日、19:00の声かけ、19:00以降の退勤時刻の申請を取り入れることで時間を意識させることができた。 ・年休取得の平均日数は13日。 ・時間外の電話対応について18:00以降は、業務時間外として電話対応不可にして、業務遂行に専念できる環境を整えた。 ・月の業務時間45時間を守ることができた月は1月であった。	C
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の推進	○特別支援教育Coが中心となり、特別支援学級担任と交流学級担任との連携を図りながら校内の支援体制を整える。週に1回、特支部会を開催し、支援についての情報共有をする。(資料⑨)	・全職員に向けた特別支援教育に関する研修会を計画、実施する。 ・途中入級や新入児童に関する校内支援委員会の開催を計画し、関係者間での情報共有を行う。	B	・保護者や関係機関との支援会議やケース会議等においては、特別支援教育Coが中心となり、計画、実施することで組織で対応することができた。 ・校内での支援体制においては、校内支援会議や特支部会を開催したことで情報共有することができて、効果的な支援体制に繋がった。	A	・丁寧な支援がうかがえる。引き続き、校内の支援体制を整えてほしい。	A	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○開かれた学校づくり	◎地域連携を効率的・効果的に推進し、地域のよさを知り、進んで地域に関わろうとする気持ちを育む教育活動の充実	◎「地域のよさを知り、地域のひとと一緒に活動や学習をすることが好き」と答える児童を80%以上にする。(児童アンケート)	・各教科並びに総合学習において、地域の「人・物・事」を活用した学習活動を積極的に仕組み、「ふるさと神野」のよさを伝えていく。また地域の関係者と学年の担当者との連絡体制を整える。 ・まちづくり協議会と連携を密にし、児童が地域行事等に進んで参画しやすい環境を整える。	B	・各学年、教科や総合の時間に地域の「人・物・事」を計画的に活用している。 ・まちづくり協議会と連携して、児童に地域行事等を紹介することで、たくさんの児童が行事に参加している。 ・「神野のまちがすきですか」という質問に対して肯定的な回答をした児童が、94.2%、「地域のひとと一緒に活動や学習をすることが好きですか」という質問にたいして肯定的な回答をした児童は、77.1%であった。	A	・「神野のまちがすきですか」という質問に対して肯定的な回答をした児童が、94.6%、「地域のひとと一緒に活動や学習をすることが好きですか」という質問にたいして肯定的な回答をした児童は、88.2%であった。 ・まちづくり協議会との連携をとることができた。そのため、行事の内容や地域の方の希望を知ることができ、児童や職員に知らせることができた。	A	・核家族化していることにより、さまざまな年代の人との交流は必要である。 ・地域のひととの関わりを子どもたちが楽しんでいることをうれしく思う。 ・子どもたちが、育っている姿を見ることが地域の者としてはうれしい。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に振り返ると中間評価で課題であった部分が最終評価では改善を図りおおむね満足できるものとなった。学校関係者からもおおむね満足いく評価をいただくことができた。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進の項目については、次年度も職員の意識改革を図るとともに行事等の見直し等を図りながら職員の働き甲斐と健康を考慮しつつ推進していきたい。 ・児童の安全な生活を保つには保護者の協力も大切な部分である。次年度も保護者への啓発を行い、児童の安全な生活維持に努めていきたい。
----------------	---